



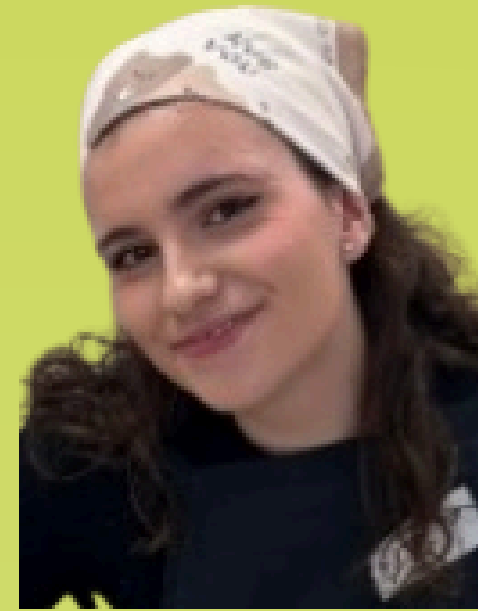
**Intercultural
Programs**

Connecting Lives, Sharing Cultures
人とつながる、世界と生きる

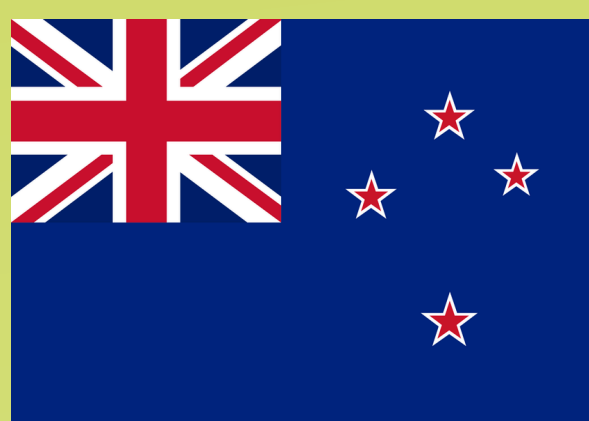
AFS京葉 Vol.12 2026



パロマ



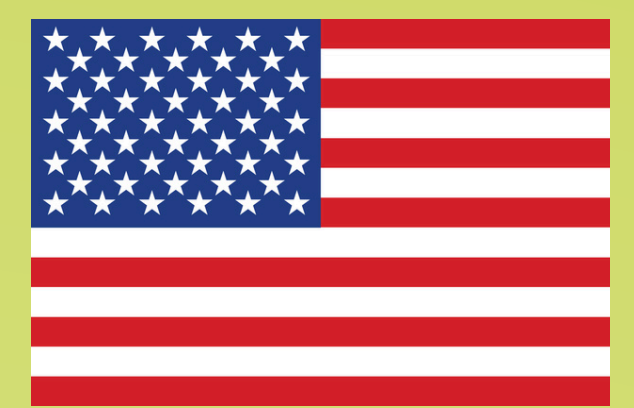
ソフィア



ゴードン



アンドレイ



エリス

「Closer to you」

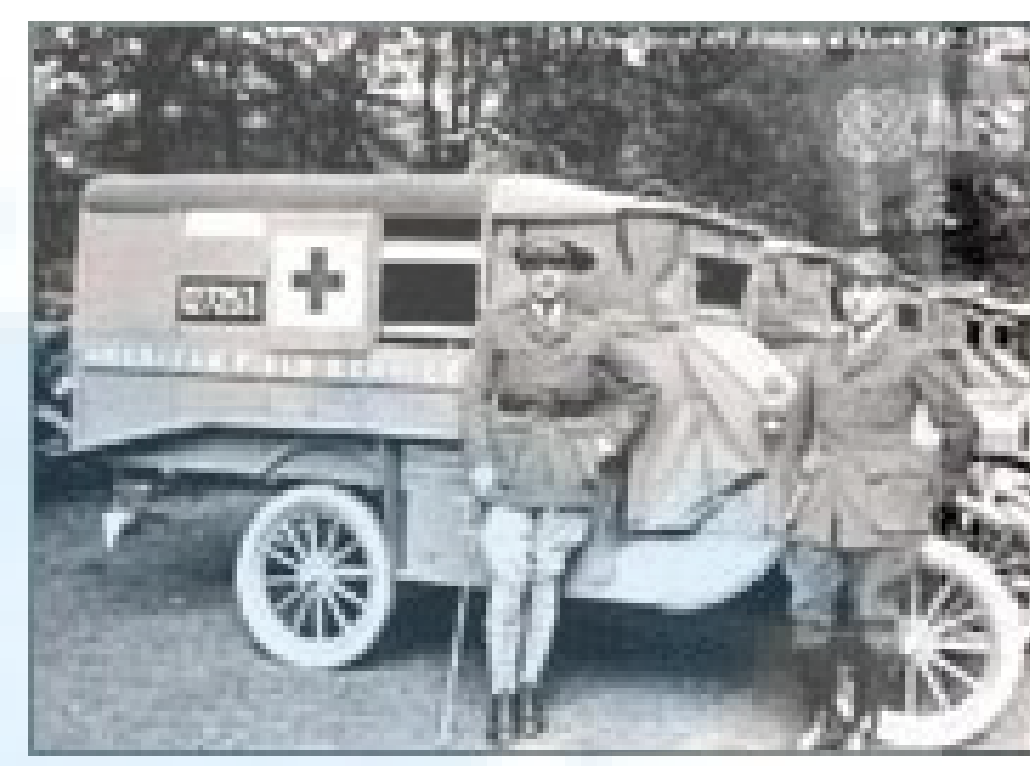
*Looking back now I still can recall the simple joys each day would bring
Soft April snow, a warm summer breeze Your smile, your laugh, the songs we'd sing
Looking through your eyes I learned how to see A new world full of possibilities
And I will always be thankful for all that you've given me*

原曲：「元気を出して」 by 竹内まりや 英語歌詞：Seiji Motoyama

歌手の竹内まりやさん(AFS19期生 1972年～73年アメリカ留学)にご自身の代表曲『元気を出して』を
提供していただき、「つながり」や「絆」をテーマにオリジナルの英語詞をつけて誕生した楽曲

(公財)AFS日本協会 京葉支部

A F Sとは



◆ 異文化学習の機会を提供する世界的な教育団体

活動の起源は、第一次・第二次世界大戦中に傷病兵の救護輸送をしたボランティア組織American Field Service(アメリカ野戦奉仕団)です。AFSの理念に共感し、活動を共にするボランティアとともに多様な文化や価値観の人々と「共に生きることを学ぶ」活動を続けています。

◆ 世界的な広がり

AFSは、世界的な広がりを持つ組織です。

国際本部をニューヨークに置き、現在加盟国は約60か国、交流国は100か国以上に及びます。AFSで留学できる国は多彩で、留学先でも他の国々からの留学生との交流が盛んです。英語圏に偏らず、より世界規模の国際交流を目指して活動しています。交換留学制度が始まった1947年以降、プログラムの参加者数は累計で50万人を超え、3万人のボランティアが活動を支えています。

2015年にはUNESCOのオフィシャルパートナー(consultative status) になりました。

◆ 公益財団法人AFS日本協会

公益財団法人AFS日本協会は、特定の政治・宗教に偏らない非営利組織です。

日本での活動は、1954年に初めて8人の留学生をアメリカに派遣して以来、現在まで留学・国際交流の活動を進めてきました。

現在、全国63支部1,300人のボランティアで留学生の受け入れや派遣などの各種交流活動を行っています。



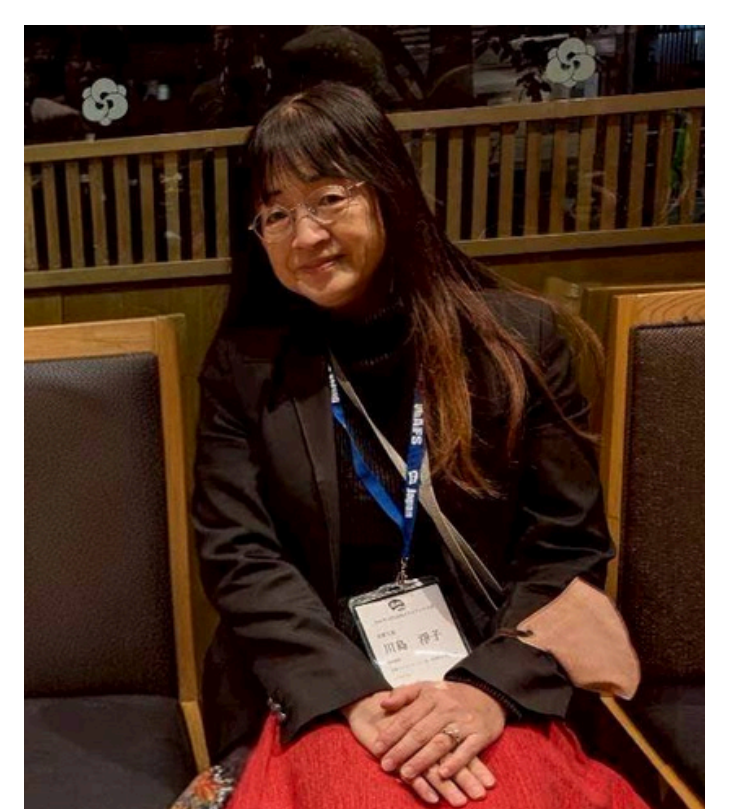
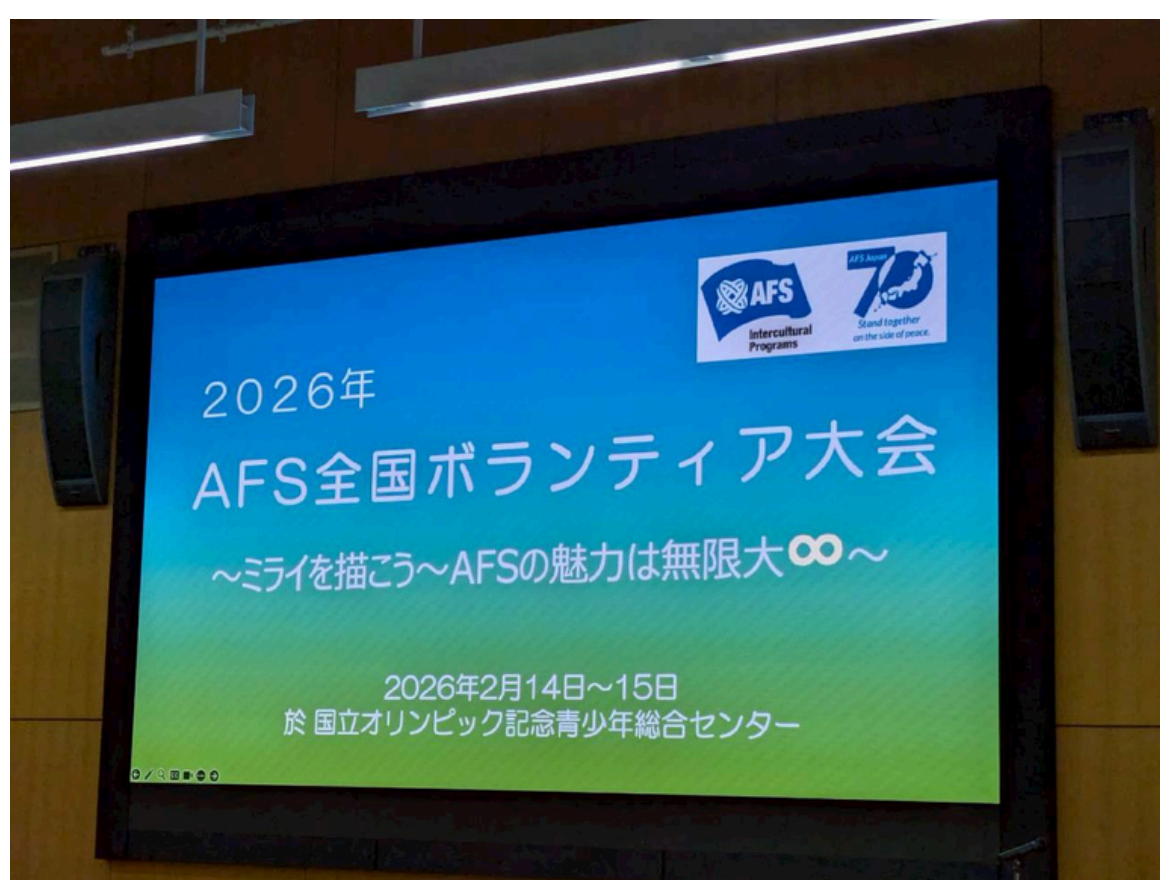
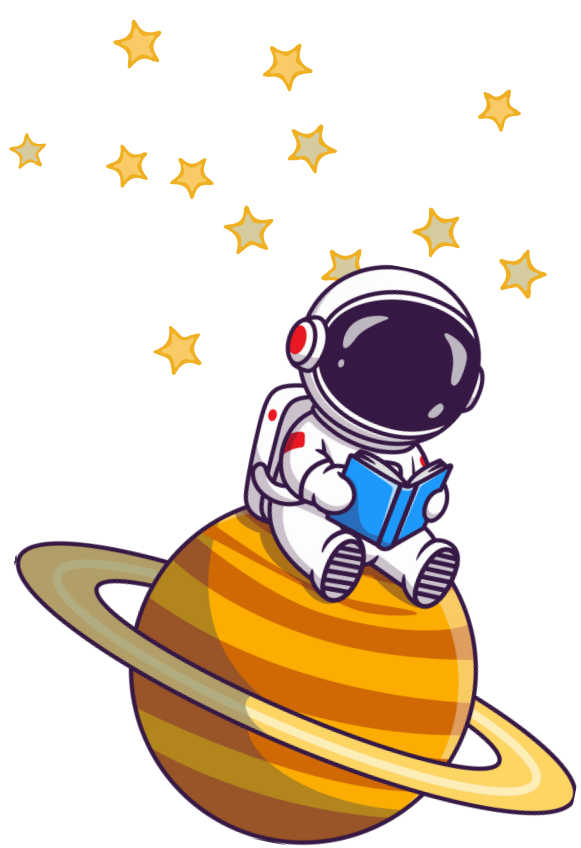
◆ 2026年AFS全国ボランティア大会

2026年2月14日15日、2年に1度のビッグイベント!!日本のAFSボランティアが集う全国ボランティア大会が代々木オリンピックセンターで開催されました。参加者は180名!!

京葉支部から6名が参加しました。テーマは「未来を描こう。AFSの魅力は無限大∞」

元AFS派遣生宇宙飛行士のスピーチ再視聴に加え、元AFS派遣生JAXA宇宙探査科学者の基調講演。

グループワーク「30年後のAFSを考える」、パネルディスカッションを実施し視座を広げました。



◆ 京葉支部 京葉支部は2001年に発足した支部です。

千葉県全域と東京都の一部(江戸川区、葛飾区)が活動地域となっています。

支部長からのご挨拶

前山崎支部長任期5年満了により、支部長を拝命しました川島浄子です。よろしくお願いたします。今回のニュースレターは2024年後半から2025年の京葉支部の活動をまとめたものです。

5人の留学生とお世話になったホストファミリー、ホストスクール、派遣生、ボランティアの様子をお届けします。このニュースレターは支部の活動をまとめることのみならず、定期的に活動を振り返り、この先どんな活動するかについて、支部皆で思いを巡らす好機となっています。原稿を執筆してくださいました皆様、ありがとうございました!また、今回は広報ニューフェイス元ホストファミリーの加瀬さんに誌面デザインを一新していただきました。どうぞ一読ください。

~20周年を記念して作成した
京葉支部のコンセプト~

ここから繋がる、無限の未来へ
Here goes, and Connect the infinite future!

AFS京葉支部 支部活動

- 2024年 8月 24年秋組、アジア架け橋+来日
- 9月 24年秋組、アジア架け橋+歓迎会
- 11月 千葉県留学フェア参加
- 12月 学校訪問交流会、アジア架け橋+送別会

2025年 1月 24年春組送別会

- 3月 25年春組来日
- 4月 25年春組歓迎会
- 6月 25年秋組送別会、歌舞伎鑑賞
- 7月 25年LS受入
- 8月 25年秋組、アジア架け橋+来日
- 9月 25年秋組、アジア架け橋+歓迎会
- 11月 千葉県留学フェア参加

12月 学校訪問交流会

2026年 1月 24年春組送別会

3月 ニュースレター-Vol.12発行



京葉支部の活動をInstagram、Facebook、ホームページにアップしています。日々の支部のイベントの開催報告やホストファミリー募集をメインにアップしています。留学生やボランティアたちの笑顔から京葉支部のアットホームな雰囲気が出るって伝わるコンテンツです。フォロワー数 516人 (2026年3月現在)



京葉支部員数22人 (2026年3月現在)
ホストファミリー、社会人ボランティアは随時募集しています。京葉支部のボランティアは、好きなこと、得意なことを、またイベント参加のみや不定期参加もOK。元派遣生、元ホストファミリーも多数活躍中。和を楽しむイベント、ITスキル講習会などボランティアの講習でも交流中!

◆日本語の会 月1回 継続的に開催 23年秋組以降14名の留学生が参加

日本語の会がスタートしてから2年がたちました。先生も多数登録。25年秋からは学生ボラ先生として大学生、派遣生の有志も参画し、留学生の日本語向上を支えています! 25年12月度の会では留学生の各国のクリスマスを日本語で紹介し立派な発表が聴けました。これからも皆で日本語頑張りましょう!!!応援しています☆彡



京葉支部の留学生紹介

◆留学生◆2024年年間生秋組 パロマ(フィンランド) 東邦高等学校



留学はあっという間に過ぎましたね。人生で最も出来事の多い一年だったと思います。渡邊家に一年間お世話になりました。習志野の東邦高校では茶道部と考古学部に入って友だちと毎日楽しく過ごした。学校で嫌なことがなかった、もっと寝たかっただけです。文化祭と体育祭もあって嬉しいです。クラスと楽しい時間だった。そういうイベントはフィンランドではないから珍しい経験でした。他の留学生と親しくなれたのも嬉しかったです、世界で絶対に会います。この一年間、ホストファミリー、学校、AFSのおかげでたくさん新しい経験をできました。留学中にパロマは人としても成長し、自信とリーダーシップを身につけたと思います。フィンランドの家族の大切さも実感しました。皆さんに感謝します。必ず日本に戻りますよ。寂しいね♡

ホストファミリー-渡邊さん 常に自分の考えを持ち、理解力が高く、ケラケラよく笑い、食べ物は何でも挑戦するパロマ。すぐ我が家に溶け込んでくれました。何でも挑戦していたところ、イカの塩辛には絶叫しイカ恐怖症になってしまいました。お喋りが大好きで知識も好奇心もたっぷり。毎晩一日の出来事から国際問題に至るまで3人で本当によく話しました。時にはカラオケ大会になり大騒ぎすることも！4月のジブリパーク旅行の前には映画を観て予習し、あーだこーだと感想を言い合った事も良い思い出です。パロマの日本語は驚くほど上達し、この頃には何でも話せていました。ゲストから家族への移り変りを実感したこの11ヶ月。いつもカレーを食べたがり、月曜日の夜は「YOUは何しに日本へ？」を観る。「た・だ・い・まー！」の大きな声と共にドアを開け、靴を脱ぎながらもう喋っている。そんな何気ない日常は私たちの宝物です。パロマ、幸せのおすそ分けをありがとう。また会おうね！

LP川島さん たくさんの事に興味があり、明るく、どんな人とも仲良くできるパロマ。学校では柔道部、考古学部、茶道部に入部。私も2度MRで学校を訪問し部活を見学させていただきました。ポケモンカフェ、横浜聖地巡り、新宿の茶道店等たくさんお出かけもしました。引越後の横須賀の我が家にも早々に来てくれました。驚くほど日本語が上達。勉強熱心でJLPT対策もオンラインで一緒に学びました。鎌倉のフィンランド人店主のパン屋さんのシナモンロールをリピートし、パロマへの思いを馳せています。素敵なHFにも恵まれました。渡邊さん、ありがとうございました。



◆留学生◆2024年年間生秋組 ソフィア(スペイン) 成田国際高等学校



ソフィア 私は去年の8月に日本に到着しました。日本語はほとんどわからない状態で日本に来たので、言語学習にとっても苦労しました。到着して最初に思ったことは、日本の夏はスペインの夏と比べて、とても暑いということです。スペインの夏も暑いですが、日本の夏は湿気が多く、それが原因だと思います。初めて学校に登校した日は今でも覚えています。日本の高校の制服を着て、日本人と同じ授業を受けました。不思議と緊張はしませんでした。がわくわくと不安で胸がいっぱいでした。日本の高校の授業は難しい日本語を使いながらの授業だったので、理解するのがとても難しかったです。それでも、AFSの職員さんや、ホストファミリーのサポート、友達の助けを借りながら、一年間の日本での生活を終えることができました。日本はスペインとは大きく異なる国で、たくさんのユニークな経験をする事が出来ました。日本での生活でたくさんの友達もできたし日本ならではの体験をすることができました。日本で経験したことは絶対忘れません。

ホストファミリー-成田さん 以前から、他国の文化や言語に触れる事が好きで、留学生を受入れる事も夫婦の夢の一つでした。子供達は初めての事で緊張していましたが、初めて会った時のソフィアの笑顔がとても可愛く、緊張と不安が一瞬で吹き飛びました。食べ物の好き嫌いが殆ど無く、作った食事を毎回美味しいと食べてくれて、とても嬉しかったです。食事の後のお喋りタイムでは日本語で話そうと頑張る姿に、絶対ペラペラになって母国に帰ってほしいと思いました。来た当初はお互いに英語を使いながらのコミュニケーションで、「ママの英語が上達してきたね」と、子供たちから褒められました。いつの間にか「日本語で分かるよ！」とソフィアに言われるくらい日本語がどんどん上達していたのがとても嬉しかったです。私達の夢をかなえてくれてとても感謝しています。



ホストファミリー-磯辺さん ソフィアが我が家に来たのは4月の1日でした。少し緊張した様子で、慣れるまでに時間がかかるかと思いきや4歳と2歳の子供たちともすぐに仲良くなり、週末も家族での外出のほか、友人との外出も楽しんでいました。とてもしっかりもので、毎朝自分でお弁当を詰めて持って行く姿はとても頼もしかったです。一緒に水族館に行った際には積極的に子供たちと関わりながら過ごしてくれており、私たちとしても大助かりでした。また、家にあったスペイン語の絵本を子供たちに読んでくれたこともあり、子供たちは興味津々に聞いていました。時には彼らの使う日本語(?)に戸惑いながらも交流を深めてくれたことに本当に感謝をしています。6月にはホストスクールの文化祭にお邪魔しました。学校の友達と過ごす姿も楽しそうでした。しっかりと自立をし、母国でなくても多くの人と、様々な関係性を築き、本人の人柄で交流をしているのだなと感銘を受けました。



LP田中さん とても素直で真面目な留学生でした。日本語の勉強もコツコツと真面目に取り組み、日本語検定にも積極的に挑戦し、結果をきちんと出していたので感心しました。最初の半年間は友達作りに少し苦労していたようですが、4月からは新しい学年になることもあり、「友達作りを頑張りたい」と前向きに話していたのがとても印象的でした。いつか日本に戻ってきてくれる日を楽しみにしています

◆留学生◆2025年年間生春組 ゴードン(ニュージーランド) 松戸国際高等学校



ゴードン 学校に通い始めて間もないある日のことです。隣に座っていた女の子が、焼き菓子を用意してくれました。そして、英語で書かれた心のこもったカードも一緒に手渡してくれたのです。その気遣いに、私はクラスに温かく迎え入れられたと感じ、とても嬉しかったのを覚えています。



LP安田さん ゴードンは私が初めてLPとして受け持った留学生です。2024年にAFS京葉支部に社会人ボランティアとして初めて参加した後、まだ右も左もわからない私に川島さんから「ぜひやってみて！」と勧められ、お引き受けしました。遅くなったOWにはドキドキしながら行ったのを今でも覚えています。でも、ゴードンはすごく素直で、人当たりが良く、すぐに仲良くなれました！10ヶ月間、色々ありましたが、自身勉強になりました。

HF 豊島さん 185cm90kg丸刈り頭のゴードンは高校生というより特殊部隊の兵士のよう。勇ましい外見でしたが話してみると「ありがとうございます」が口癖で、優しく力持ちの素直な青年でした。皿洗いも率先して自分のだけでなく家族の分も洗ってくれました。バレーボール愛に溢れ怪我をして痛くても鎮痛剤を飲んで試合に参加。部活の準備のために休日の方が早起きして登校。電車で20分、高校最寄り駅から約3km20分の自転車通学は暑い日、雨の日、寒い日大変だったと思うけど、遅刻、欠席一度もなかったね。和食が大好きでご飯は大盛り、休みの日は一日4食食べてたね。ゴードンと一緒に過ごす日々はいつも笑いが絶えない楽しい毎日。いつでも和食を食べに帰ってきてね。土鍋でたくさんごはん炊くね！荷物に入りきれなかった下着類はその時のためにとっておくね。



◆留学生◆2025年年間生春組 アンドレイ(スロバキア) 渋谷教育学園幕張高等学校



アンドレイ 多くの人は文化の違いなどについて書くことを期待しているかもしれませんが、でも私が日本でいちばん大切だと感じたのは出会った「人」です。この人たちがいなければ、私たち留学生は今ここにいらなかったと思います。

日本に来たばかりの頃は正直ここまで考えていませんでした。1年間日本で生活してみて、これは本当にすごいことだと感じています。オリエンテーション、何気ない旅行、毎月の日本語レッスン、プレゼント、メッセージでの支え、そして約10か月間6人もの10代の留学生を支え続けること。

ホストファミリー、学校の友だち、LP、皆さんがいなければ素晴らしい留学生活は絶対にできなかったと思います。感謝しています。私の青春はより輝くものになりました。そして、留学生の仲間たちにも伝えたいです。私たちは学生として見られることが多いですが、実際は自分の国とはまったく違う国で生活し、生き抜いています。その一人ひとりが、本当に勇気のある存在だと思います。決して忘れません。本当に、ありがとうございました。

ホストファミリー-越塚さん スロバキアってどんな国だろう。お米は食べられるのかな？3ヶ月も一緒に生活できるかな？たくさんの疑問と不安から始まった初めてのホストファミリー生活も、気がつけばもうすぐ10ヶ月が経とうとしています。一緒にキャンプに行ったり、石垣島旅行、スロバキアの料理と一緒に作ったり。小学生の子供たちとは、本当のお兄さんのように遊んでくれ、かけがえのない楽しい時間を過ごしてきました。一方、年代や文化、価値観の違いからすぐにはお互いを理解できず、話し合いが必要な場面もありました。その度にAFSの方々の温かいサポートを受けながら乗り越えてきた経験は、今振り返るとどれも大切な学びです。アンドレイとの出会いに心から感謝するとともに、これからのさらなる成長と活躍を心より祈っています。本当にありがとうございました。



LP 高本さん LPとして初めての経験でしたが、他支部員の方のサポートを得て、学校・HF・留学生の3者が良いバランスを保てるよう10ヶ月間心がけました。HFの相談には傾聴と率直な助言を心がけましたが、自分で解決を望む留学生とHFの間でLPとしての対応に難しさを感じる事もありました。無事に同一家庭で留学生生活を終了できホッとしています。我が家への短期滞在での深い交流も得られ、彼との出会いは私たち家族にとっても大きな財産となりました。

◆留学生◆2025年年間生春組 エリス(アメリカ) 光英VERITAS高等学校



エリス 日本には子どもたちの教育を支える家庭がたくさんあると思います。小さな子どもを持つ家庭が、留学生を家に迎え入れ、我が子のように扱うのは大変なことだったと思います。彼らがそこまで努力したことは素晴らしいことです。

同級生を温かく迎え入れ優しく接してくれたことに感謝しています。私自身、自分の恐怖心が最初の一步を踏み出せないことが何度もありました。もっと早く勇気を出せばよかったと思っています。複数のホストファミリーに恵まれることは素晴らしい経験だと思います。日本人の多様なアイデンティティを理解するのに本当に役立ちます。たくさんの博物館を訪れました。私が一番好きなのは、教育に関して各人が自分の職業に対して持つ細心の注意だと思います。

もっと言いたいことはあるんですが、言い過ぎになってしまいます！まとめると、この機会を通して私をサポートしてくださった皆さんに本当に感謝しています！



ホストファミリー-内山さん エリセの性格を深く知ることができたかという必ずしもそうではない気がするのですが、良くも悪くも癖のある子だったと思います。けれど短所も知ったうえで、家族みんなが彼女がいなくて寂しく感じるということは、家族になつたんじゃないかとも思ってしまう。なにがなんでも4月から部活をやりたい、部活の後にジムに行かせてほしいという主張の強さや子供たちが話しかけても無言だったり、What's?ってことは多かったです。私はエリセを尊敬しているし成長を見させてもらい、貴重な経験をしました。16歳で親元を離れ、言語もほぼわからない異国の地で毎日部活に家事の手伝いに夜は勉強、シンプルにすごい。口数はかなり少ないんですが、背中で見せてくれたと思っています。エリセ頑張ってた？頑張らないとだよと自分自身やみんなに言えるかなと。後半は子供たちにも慣れ、かくれんぼとかをして遊んでいたこと、回転ずしに来ているけど遠慮してそばしか頼まない彼女、特別なイベントより日常が思い出です。



LP 野口さん 初めてのLP。お世話になるHFやHS訪問、留学生も遅れての来日。数ヶ月でものすごい数の人との出会い、経験。ワクワクした日を過ごしながらも山崎支部長、川島さんにはいつも相談しっぱなしでした。留学生活が進むに連れ、小さな問題がたくさん。多方面からの視点で色々模索。エリセは行動力があり、意思が強い。それゆえにHFが困惑することもしばしば。それでもエリセに寄り添い、相談いただけ有り難かったです。この留学生活が将来、大切な経験だったとそれぞれに思える日が来るといいなと願います。貴重な体験をありがとうございました。

おかえりなさい!! 派遣生 71期(24年出発)の4名の体験談です

◆派遣生 71期 永富 柚羽さん (アメリカ) Evergreen High School

私は2024年夏、AFS長期派遣プログラムで約10ヶ月間、アメリカ・コロラド州に留学しました。コロラド州は全米で最も平均標高が高い州として知られ、私が暮らしていた地域ではなんと標高2000メートル! 四方を山に囲まれた自然豊かな環境で、交通渋滞の原因が鹿だった、ということも日常茶飯事でした。日本の都市部で育った私にとって、目に映る景色も日々の出来事も全てが本当に新鮮で刺激的でした。そんな環境で私が留学を通して得た最大のものは「行動力」です。アメリカの高校には日本のようなクラスの枠がなく、話しかけられることを待っているだけでは人との繋がりはほとんど生まれません。最初は言語への不安から一步を踏み出せずにいましたが、「このままでは何も変わらない」と思い、授業で隣になった子に話しかけたり、テニスチームに参加したりしました。その積み重ねが友情につながり、帰国前には友達が集まってパーティーを開いてくれました。

留学で身につけた行動力は、帰国後も新しい挑戦へ踏み出す原動力となっています。今年の冬休みには再び渡米し、ホストファミリーとクリスマスや新年を一緒に過ごしました。留学で出会った人々は、今も、そしてこれからも、ずっと私にとってかけがえのない大切な家族や友達です。

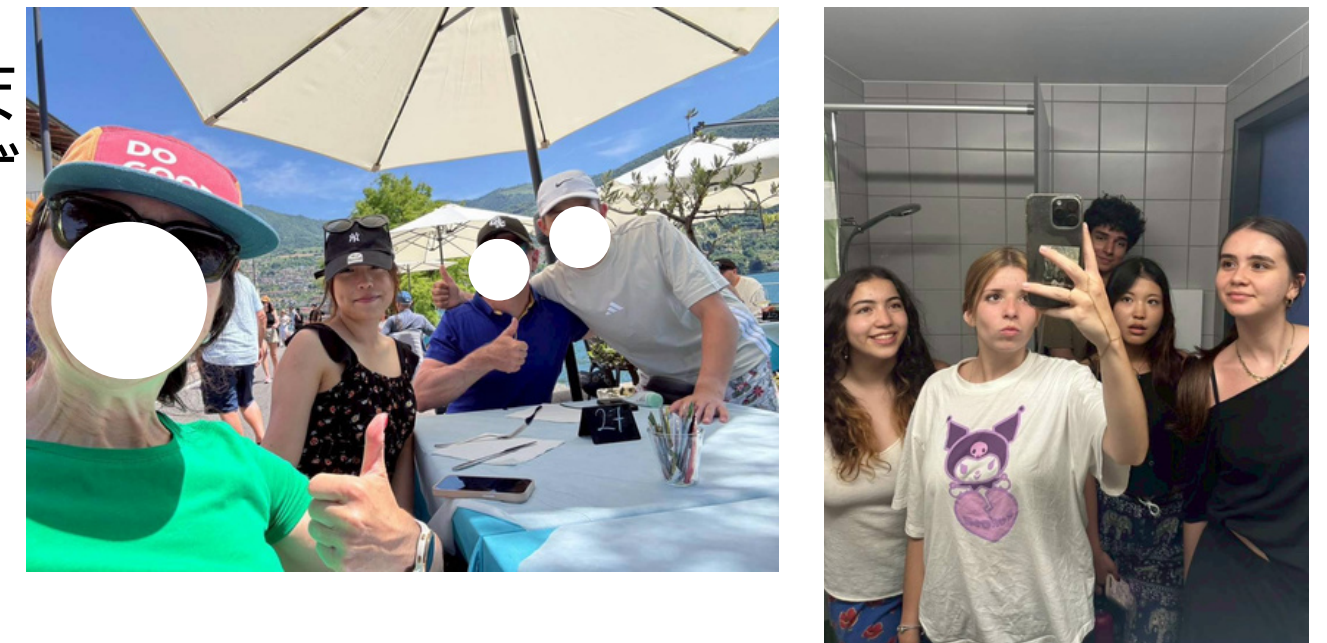


◆派遣生 71期 三田村 美桜さん (スイス) Kantonsschule Hottingen

長期で海外に滞在するのは初めてでしたが、1年間という短い期間の中でたくさんを経験させていただきました。まずはスイスならではのハイキングです。スイスの人々はハイキングが大好きで、休みのたびにホストファミリーが様々な山に連れて行ってってくれました。さらに、ヨーロッパならではの経験として、7カ国を旅行しました。電車や車で簡単に国境を越えられるにもかかわらず、スイスとは全く異なる文化や言語に触れることができます。

言語については、私が住んでいた地域ではスイスドイツ語が話されており、標準ドイツ語とはかなり異なるため、最初は何を言っているのか全く分からず戸惑いました。しかし、クラスメイトやファミリーが丁寧に教えてくれたおかげで、少しずつ理解できるようになりました。

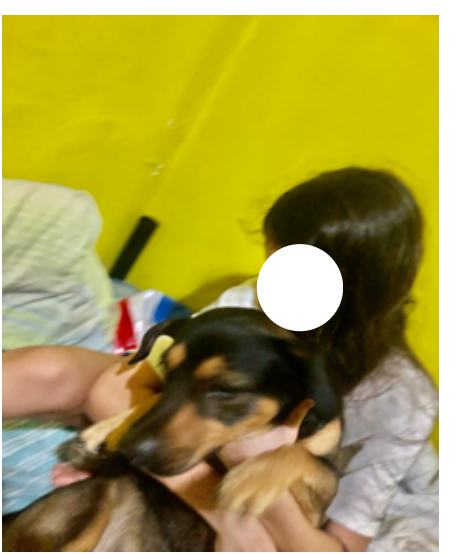
留学を通して海外に行くことへの抵抗が全くなくなると同時に、異なる文化・価値観を持った人と話すことが楽しいと思えるようになりました。将来はヨーロッパだけでなく、発展途上国など様々な国をバックパックで巡ってみたいです。



◆派遣生 71期 鈴木 巧人さん(コスタリカ) Liceo de nicoya

経済的に余裕のない家庭や、特に途上国での生活では、価値観や人間関係、生活環境の違いから、日本人にとって精神的な負担が大きくなることがある。自分から譲歩しなければ関係が進まない場面や、自由に会話できないことによる孤独感が、留學生活の楽しさを大きく左右する。派遣先の環境が恵まれない場合、世界が美しく見えず、四季のない土地では気分でも辛さを感じやすい。学びや文化交流は得られるが、それが必ずしも「楽しい留学」になるとは限らず、特に雑談や人との自然なつながりが作れないと、充実感は大きく損なわれる。一方で、そうした経験を経て日本に戻ったとき、日本の環境や家族の存在のありがたさを強く実感できた。

留学は本来、楽しい出来事を共有し、感情をぶつけ合い、家族のような関係を築くことで充実するものだが、途上国ではその幅が狭くなりやすく、適応できなければ満足いく一年になりにくいこともある。自分は芯の強さゆえに無理に適応しようとしすぎ、本当はもっと直感を信じ、自分の居場所を探しわがままになってもよかったと感じている。結論として、充実した留學生活を送りたいなら、価値観や生活水準がある程度近い「中流以上の家庭」が多い国や地域を選ぶことで、リスクを減らせるという考えに至った。



◆派遣生 71期 海野 仁那さん (アメリカ) Jackson Reed High School

私は2024年7月から11カ月間、アメリカの首都ワシントンDCへ交換留学をしました。留學前は長いと感じていた11カ月も、毎日が発見と学びに満ち、あっという間でした。留學を通して、「新しいことに挑戦する行動力」や「自己管理能力」を身につけました。フィールドホッケーやラククロスに挑戦し、毎朝6時の練習を続け、シーズン終盤には1軍の試合に出場できたことは大きな自信となりました。

多様な国籍や文化を持つ人々が集まるワシントンDCで生活する中で、人と関わることの大切さや文化の違いを受け入れる姿勢を学びました。また、日本の文化が現地で根付き、尊重されていることを実感し、日本人としての誇りを強く感じました。現在は留學で得た力を生かし、学校行事や国際交流の場に積極的に参加しています。

アメリカでの充実した毎日に戻りたい気持ちもありますが、今は日本で勉強に励み、将来再びワシントンDCに戻りたいと考えています。クリスマスには留學中に会った人々へカードを送り、今も交流が続いています。支えてくれた家族やホストファミリー、日米のAFSボランティア、先生や友人への感謝を忘れず、これからも学びを深めていきたいです。



京葉支部の

社会人ボランティア

今回は3名に、ボランティアになった理由や
AFSとの関わりをうかがいました。



◆高本亜希子さん HF⇒社会人ボランティア (2024年～2年)

私がAFSボランティアに登録したきっかけは、我が子に海外への興味を持ってほしいという願いから始めた、短期留学生の受け入れでした。短期間ではありましたが、家族にとって貴重な経験となり、その際にお世話になった支部長の人柄に惹かれて登録を決めました。

その後は「日本語の会」のサポートやLPを経験し、多様な留学生との交流を通じて、私自身の世界も大きく広がりました。京葉支部の方は、皆さん様々なスキルを持った素晴らしい方で、子どもの為にと始めたボランティア活動ですが、今は家族の中で誰よりも、活動を楽しんでいます！

かつて受け入れた学生が、日本で地震があると心配して連絡をくれたり、母の日に感謝のメッセージをくれたりと、国境を越えた絆を感じております！

将来、ご縁のあった留学生たちの母国を訪ねる旅を主人とするという夢もできました。

それを今から心待ちにし、今後も細く長く、出来る範囲でボランティア活動に参加したいと思っています！



家族で記念写真



留学生が好きだといってくれた
我が家近所の風景

◆安田純土さん 社会人ボランティア(2024年～2年)

姉が高2 (小生は中2) の時、ミネソタ州に派遣されたのがAFSとの出会いでした。50年以上経った今でも彼女がホストファミリーと仲良くしているのを見て、ちょっと羨ましく思っていました。

定年退職後、ボランティアを始めたいなと思い、日本本部に問い合わせたら、京葉支部にお誘いいただいたんです。最初の研修の後、すぐに留学生LP担当を提案されて、今後の経験のために引き受けることにしました。第一号は2025年春組でN Z出身のゴードン。彼は優しい心遣いのできる大人の雰囲気を持った素敵な青年で、ホストスクールやホストファミリーにもすぐに馴染んでくれました。ホストマザー過去にたくさんの留学生を受け入れてきた大ベテランにも助けて頂き、途中で若干のコミュニケーション不足はありましたけど、それでもなんとか10ヶ月間をファミリーチェンジなしで過ごしてもらえました。

まだまだ3年目の駆け出しですが、これからもよろしくお願いしますね！



姉のホストファミリーが来日した際に日光に同行しました

◆木村早苗さん 派遣生⇒社会人ボランティア(2024年～2年)

両親からの強い勧めもあり挑戦した留学の前半は、話す英語には自信もなくホストファミリーと特定の友達と過ごすことが多かったです。しかし後半になると謎の自信をつけ、学年が異なる友達が増えたり新しい授業をとったりして、大満足で留学生生活を終えることができました。

そんな経験を経て、行ってらっしゃいの言葉の意味や一期一会が人生にもたらす素晴らしさを大切にしたいと思い、今、空港で働いています。

2024年のNHKの番組で空港で留学生を待つAFS社会人ボランティアの方が取材を受けており、その姿を見て留学っていいなと初心を思い出し、京葉支部で社会人ボランティアを始めました。

自身の留学から17年が経ち、当時とは異なることがたくさん！ただ変わらないのは、留学生とホストファミリーがこれから始まる生活に期待と不安もどちらも持っていること。

不安を乗り越えるのは留学生自身ですが、それを楽しみに変えていくことをサポートしていきたいと思っています。



ホストスクールの卒業式にて
ホストペアレンツと



マティアスのLPやっています。
マシンガントークが楽しいです！

◆支部を支えてくださっている寄附金納付者の皆様、 ホストファミリー、ホストスクール、ボランティアの皆様へ

いつも留学生・派遣生の笑顔を支えていただき、ありがとうございます。
AFSでの留学が経験の1つとなり、彼ら彼女らの輝く未来、世界レベルの絆、
そして、真の世界平和につながることを、心より願っています。
2026年も引き続き、ご支援・ご協力をいただきたく、よろしくお願いいたします。

ご寄附のお願い

京葉支部の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。
これまでいただきましたご寄附は、留学生や派遣生の交流行事やニュースレターの発行費用等に活用させていただきます。

引き続きのご支援を賜りますよう、お願いいたします。

- ・AFS日本協会のホームページ「寄附」メニューから、クレジットカードで手続きが可能です。
- ・郵便口座への振替は以下です。

口座番号 00170-5-610779 加入者名：AFS寄附金口座

いずれの場合も、通信欄には「京葉支部宛寄附」とご記載ください。

AFS日本協会への寄附は、確定申告の際に各種税金の優遇措置の対象となります。



AFSの活動にご寄付いただく方法のご案内サイトにアクセスできます→

お知らせ

◆Instagram、Facebook配信中 支部活動の様子をご覧ください。
フォロー・いいねでの応援もよろしくお願いいたします。



Instagram:(公財)AFS日本協会京葉支部



Facebook:(公財)AFS日本協会京葉支部

ボランティアのご案内

ボランティア活動をお考えの方、これまで京葉支部を支えてくださった方で一緒に活動を行ってくださる方を募集しています。
歓送迎会などのイベントのみ、家庭訪問などのオンラインのみの活動、広報(SNS、ニュースレターの編集・発送)など。部分的、期間限定の活動への参加も可能です。以下までご連絡ください。
ご検討よろしくお願いいたします。



お問合せ先

(公財)AFS日本協会 京葉支部

E-mail : info-keiyo@afs.or.jp

HP URL:<https://www.afs.or.jp/contact-us/keiyo-chapter/>